

# 「深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究 (外国語)

— 思考ツールを活用した書く活動を通して —

梅宮 佑喜<sup>1</sup>

グローバル化が急速に進展する社会において、外国語によるコミュニケーション能力の育成が求められている。本研究では、高等学校外国語科(英語)における「書くこと」の言語活動に必要な論理的思考力を育成するという視点のもと、生徒が情報を整理しながら、考えを形成・再構築する過程を取り入れた思考ツールを活用して授業を行い、それが「深い学び」の視点による授業改善につながるかを検証した。

## はじめに

平成28年12月に中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(以下、「答申」という)によって、高等学校学習指導要領改訂の方向性が示された。

「答申」によると、「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上」(中央教育審議会 2016 p.193)が求められている。しかし、高等学校の授業では、その育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことが課題として挙げられている(中央教育審議会 2016 p.193)。

文部科学省が実施した平成29年度英語教育改善のための英語力調査(高校3年生)の概要(以下、「英語力調査」という)では、日本の高等学校3年生の英語力が4技能全てにおいて達成目標を下回り、特に、「話すこと」と「書くこと」の領域で無得点者が一定数いることが明らかになった(文部科学省 2017 p.2)。

このような課題を踏まえて、平成30年3月に高等学校学習指導要領が改訂された。改訂の基本方針の一つが授業改善の推進である。生徒が学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取組が求められている。

## 研究の目的

本研究において開発した思考ツールを活用し、見方・考え方を働かせる「深い学び」の視点による授業を行い、英語によるコミュニケーションを図るために必要な論理的思考力の育成に役立てる。

## 研究の内容

### 1 研究の背景

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

生徒の資質・能力を育成するために求められているのが、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取組である。「答申」によると、これら「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点は、「授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点」(中央教育審議会 2016 p.50)である。所属校では、「深い学び」に関して授業像がイメージしにくいという意見があったため、本研究はこれに焦点を当てた。

(2) 「深い学び」の実現に向けて

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』では、「深い学び」の実現のためには、『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」(文部科学省 2018b p.118)過程を重視した学習の充実を図ることと示されている。筆者は、所属校生徒の学習の様子から、自分の考えを基に何かを創り上げることが不得意な生徒が少なくないと感じている。この点を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、「思いや考えを基に創造することに向かう過程」を重視した取組を行った。この際に、思考ツールに着目して学習の充実を図ることが「深い学び」の実現に

1 神奈川県立上鶴間高等学校  
研究分野(授業改善推進研究 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する研究・外国語)

つながると考えた。

### (3) 育成を目指す資質・能力

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編英語編』(以下、「解説」という)には、学習指導要領改訂の趣旨の一つとして、特に、「話すこと」と「書くこと」による発信能力の強化が示されている。そして、これらの言語活動において育成が求められているのが、論理的に考える力である。高等学校卒業時に、「論理的に詳しく話して伝える・伝え合うことができる」及び「複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる」ようにするため、英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲの各科目で段階的な目標設定がなされている(文部科学省 2018a pp. 316-317)。本研究では、情報や考えなどを英語で表現し、コミュニケーションを図るために必要な論理的思考力の育成に焦点を当てた。

### (4) 高等学校3年生の書く力の実態

文部科学省はCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA2レベル(実用英語技能検定準2級程度～2級程度以上)に達した生徒の割合を50%以上とすることを目標としているが、高等学校3年生約6万人を対象とした「英語力調査」では、「書くこと」において19.7%と大きく下回った(文部科学省 2017 p. 2)。このことから、「書くこと」の言語活動を通して、資質・能力を育成する取組が求められていると言える。

### (5) 所属校の現状と課題

所属校では、外国語科の教員がアイデアを交換しながら授業改善に取り組んでいる様子が見られる。しかし、指導の実態として、『書くこと』の言語活動をどのように行えば良いか分からない」といった声が多く挙がっている。生徒の実態としては、物事を筋道立てて考えることを苦手とする様子が見られる。この現状を踏まえて、「書くこと」の言語活動における指導と、本校生徒の学習段階に合わせた論理的思考力の育成を所属校の課題と捉えた。

## 2 本研究における「深い学び」

### (1) 本研究で育成を目指す資質・能力

本研究では「書くこと」の言語活動を通して、英語によるコミュニケーションを図るために必要な論理的思考力の育成を目指した。具体的には、英語コミュニケーションⅠの「書くこと」の目標である「考えなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる」ようにすることを通して、論理的思考力の基礎を養うこととした。「解説」によると、「論理性に注意する」とは「理由や根拠を明らかにするなどして、論理の一貫性に注意すること」である(文部科学省 2018 pp. 26-28)。これを本研究では、「読み手に伝わるように、考えを主張→理由→具体例→結論という段落構成で書

いて伝えること」とした。

### (2) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

「解説」では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」としている(文部科学省 2018a p. 12)。本研究では、「生徒が、授業で読んだ冒険の物語を踏まえ、自分ならば冒険をしにどこに行きたいか、また、それはなぜかを紹介すること」、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」とした。また、「他者との関わり」については、「生徒とは異なる言語や文化、背景をもった人々」に着目し、このような相手に伝わるように、『書くこと』の言語活動を通して、情報を整理しながら考えを形成し、再構築すること」とした。

### (3) 「深い学び」の定義

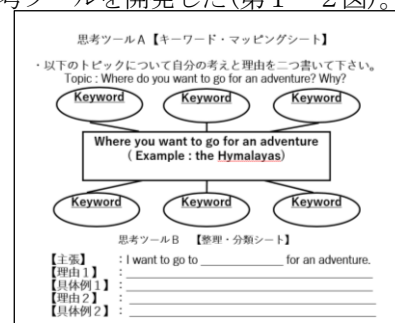
本研究における「深い学び」を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、情報を整理しながら考えを形成し、再構築することを通して、英語でコミュニケーションを図るために必要な論理的思考力を育成する学び」と定義した。

### (4) 「深い学び」の実現につながる思考ツール

本研究において開発した思考ツール

「深い学び」の実現につながる教材として、思考ツールに着目した。田村・黒上によると、思考ツールは「考える力」、「思考力」を高めるためのツールであり(田村・黒上 2014 p. 2)、情報を比較、分類、関連付け等をして、整理・分析する授業を実現できるとしている(田村・黒上 2014 p. 11)。

本研究では大井(2008)を参考に、見方・考え方を働かせる思考ツールを開発した(第1・2図)。



第1図 ツールA・B

学習段階別にAからEまでのツールがあり、それぞれ、キーワード・マッピングシート(A)、整理・分類シート(B)、論理構成シート(C)、チェックリスト・コメントシート(D)、推敲シート(E)とした(以下、それぞれ「ツールA」、「ツールB」、「ツールC」、「ツールD」、「ツールE」とし、これら全体を指す場合には

「本思考ツール」とした)。ツールDは日本語で、他は全て英語で記入する。

思考ツールC 【論理構成シート】  
Topic: Where do you want to go for an adventure? Why?

【主張】 I want to go to \_\_\_\_\_ for an adventure. Write your main idea. 【主張】を書こう。

【理由数】 There are \_\_\_\_\_ reasons. Show how many reasons you have. 【理由】の数を書こう。

【理由1】 First, \_\_\_\_\_ Use "First" to show your first reason. Firstを使って第一の【理由】を書こう。

【例1】 For example, \_\_\_\_\_ Use "For example" to show your example. For exampleを使って【具体例】を書こう。

【理由2】 Second, \_\_\_\_\_ Use "Second" to show your second reason. Secondを使って第二の【理由】を書こう。

【例2】 \_\_\_\_\_ Write your second example. For example以外の表現で書いても良い。

【結論】 For these reasons, I want to go to \_\_\_\_\_ for an adventure. Write your main idea again. For these reasons. これらの理由から【主張】を再度書こう。

思考ツールD 【チェックリスト・コメントシート】

・交換した英文を読み、以下のチェックリストに答えて下さい。

Check list: 1 【主張】が求めているか。Yes / No

2 【主張】を支える【理由】が二つ書けているか。Yes / No

3 【理由】の具体例等が書けているか。Yes / No

4 つながりを示す語や論理展開を示す語が書けているか。Yes / No

5 【結論】が書けているか。Yes / No

6 【主張】【理由】【結論】の内容が互いに関連し合い、論理的に書けているか。Yes / No

・交換した英文を論理的な文章にするには、どうすれば良いと思いますか。具体的に書いて下さい。

思考ツールE 【推敲シート】

・Check listとコメントを確認し、論理的な文章になるよう、書き直しましょう。  
Topic: Where do you want to go for an adventure? Why?

第2図 ツールC・D・E

イ 見方・考え方をどう働かせるか

本研究は見方・考え方を働かせるために、ツールAで考えを形成するための準備、ツールBで情報の整理、ツールCで考えの形成、ツールDとツールEで考えの再構築を行う過程を取り入れた。

ツールAでは、課題(Where do you want to go for an adventure? Why?)についてペアやグループで話し合い、楽しみながら考えを膨らませることにより、書くための材料をキーワードで数多く書き出すことをねらいとした。自由に発想することで、課題に対して主体的に関わろうとする意欲を高められると考えた。

ツールBでは、生徒がキーワードを精査し、主張、理由、具体例の項目に分類することをねらいとした。情報を整理することで、論理的な文章展開を心掛け、表現するための思考力を養うことができると考えた。

ツールCでは、生徒が論理の一貫性に注意し、主張→理由→具体例→結論の展開で考えを書くことをねらいとした。その際に、ツールCに示された論理の展開を示す表現(First等)を確認することで、段落構成に注意を払うようになってきた。また、英語が不得意な生徒への支援として、シートの右側に書くための手がかりとなる情報を「Write your main idea.」のように英語で示し、「【主張】を書こう」、のように日本語を付して記載した。生徒はこれを参考に考えを書いた。

ツールDでは、生徒がツールCで書いた英文をペアで交換し、チェックリストを用いて、主張、理由、具体例、結論、つながりを示す語、論理展開を示す語等が適切に書けているか確認することをねらいとした。また、論理的な文章を書くにはどうすれば良いかについての意見をコメントシートに書く活動をペアを替え

て2回行うこととした。客観的に文章を読み、コメントを交換するという、他者との対話を通して、双方の生徒が論理性への注意を払い、その後にコメントを自分の文章にどのように反映するかについて、自己と対話する時間を設けることで、考えを深めることができると考えた。

ツールEでは、これまでの学びを総合し、文章を推敲し、考えを書き上げることとした。

### 3 研究の仮説

本思考ツールを活用して外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる授業を行い、生徒が英語でコミュニケーションを図るために必要な論理的思考力を育成することは、「深い学び」の視点による授業改善につながる。

### 4 仮説検証の手立て

#### (1) 本思考ツール

生徒が本思考ツール活用の前後で書いた英文を比較し、その変化を分析した(英作文の題は同一のもの)。

#### (2) 事前・事後アンケート調査

検証授業の前後でアンケート調査を実施し、生徒が「書くこと」に関して感じていることにどのような変化があったかを分析した。

### 5 検証授業

#### (1) 検証授業の概要

【実施期間】令和元年9月24日(火)～10月4日(金)

【対象】上鶴間高等学校第1学年1クラス

【単元名】The Impossible is Possible.

【授業数】5時間(単元の授業数は全14時間、第1～3時、第9～14時は所属校教職員が、第4～8時は筆者が担当した。第1表の太枠が検証授業)である。

#### (2) 検証授業前のアンケート調査と英作文課題

生徒が「書くこと」に関してどう感じているかを調査するため、事前アンケートを実施した。また、指導前の生徒の書く力を把握するため、「あなたは冒険をしにどこに行きたいですか。またその理由は何ですか」という題で、生徒に自分の考えを英語で書かせた。

#### (3) 各時間の授業内容

第1表 各時間の学習内容

時	学習内容
1	・単元の目標を確認する(自分の考えを論理性に注意して書いて伝えることができる力を身に付けること)。 ・文と文のつながりに注意する。
2	・トピックセンテンスとキーワードの役割に注意する。
3	・主張→理由→具体例→結論の文章構成に注意する。
4	・ツールAでキーワードを書き出す。 ・ツールBでキーワードを主張、理由、具体例の各項目に

4	整理・分類する。
5	・ツールCで論理の展開に注意しながら第一稿を書く。
6	・ツールDでペアで互いの英文を読み合い、どうすれば相手の英文がより論理的になるかコメントを書く。 ・ツールEで第二稿を書く。
7	・前時に続き、ツールEで第二稿を書く。
8	・ツールEを基にグループで音読発表する。 ・事後アンケート調査を実施する。
9～ 14	・第4～8時までと同様の学習過程で別課題(トピック)に取り組む。

本単元の内容は、登場人物の冒険の物語と、高校生に対するメッセージを読み取ることである。各時間の開始時には本思考ツールの活用方法を説明し、学習の見通しを持たせ、終了時には振り返りを行った。

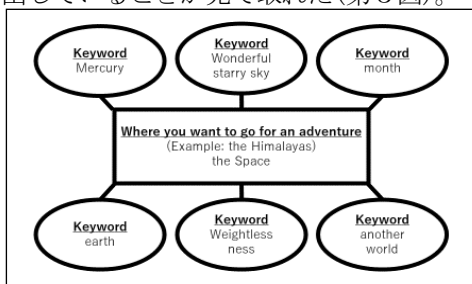
以下、各時間の活動において、生徒が留意する点を示す。第1～3時では、ここで学んでいる内容が第4時以降の活動につながることに注意する。第4時では、楽しい雰囲気づくりと、適宜、インターネットで調べる時間の設定(ツールA)、整理した内容が主張、理由、具体例として適切かを深く思考する(ツールB)。第5時では、段落(パラグラフ)の構成に注意して書き、論理性に注意を払い読み返す(ツールC)。第6時では、対話を十分に行う(ツールD)。第7時では、自分の考えが言語や文化、背景の異なる読み手に伝わるかについて注意する(ツールE)。第8時では、発表が相手に伝わるように音読練習を十分に行う。そして、第9～14時では、第4時～第8時までの学習過程を繰り返す。その上で、単元の目標達成を目指すこととした。

## 6 検証結果

以下、検証結果として示した生徒の記述は、それぞれの思考ツールの特徴が出ているものを載せた。

### (1) 情報を整理し、考えを形成すること(ツールA・B・Cの生徒の記述とアンケート調査結果)

ツールAの記述から、この生徒はキーワードを数多く書き出していることが見て取れた(第3図)。



第3図 ツールAの記述(生徒の記述より作成)

冒険に行きたい場所には「the space(宇宙)」、キーワードは「Mercury(水星)」、「weightlessness(無重力)」、「wonderful starry sky(素晴らしい星空)」等と書かれていた。この生徒に限らず、ほとんどの生徒がキーワードを書くことができた。

ツールBの記述から、この生徒は冒険をしに行きたい場所(アメリカ)に関するキーワードの「world heritage(世界遺産)」、「Grand Canyon(グランドキャニオン)」を理由、具体例の項目に当てはめて、情報の整理・分類を行っていた(第2表)。

第2表 ツールBの記述(生徒の記述より作成)

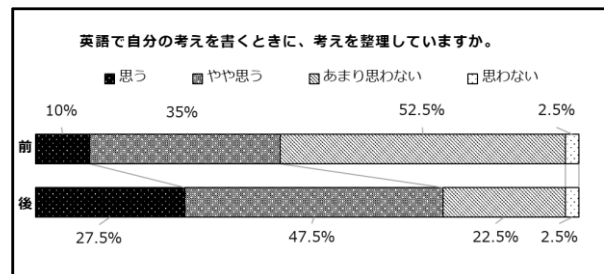
[主張] I want to go to America for an adventure.  
 [理由1] I want to go to World Heritage.  
 [具体例1] Grand Canyon, Statue of Liberty  
 [理由2] I want to go to American festival.  
 [具体例2] countdown, Thanksgiving.  
 注[ ]の箇所と下線部はツールに印刷されている。

ツールCの記述から、この生徒はどのような展開で文章を書けばよいかを確認しながら、主張→理由→具体例→結論という展開で文章を書き、考えを形成していることが見て取れた(第3表)。

第3表 ツールCの記述(生徒の記述より作成)

[主張] I want to go to the Philippines Cebu Island for an adventure.  
 [理由数] There are two reasons.  
 [理由1] First, I want to see beautiful scenery there.  
 [具体例1] For example, night view spot. Cebu has nice view spot.  
 [理由2] Second, I want to interact with whale sharks in Cebu.  
 [具体例2] You can swim with whale sharks in Cebu.  
 [結論] For these reasons, I want to go to the Philippines Cebu Island for an adventure.  
 注[ ]の箇所と下線部はツールに印刷されている。  
 生徒の記述は原文のままにした。

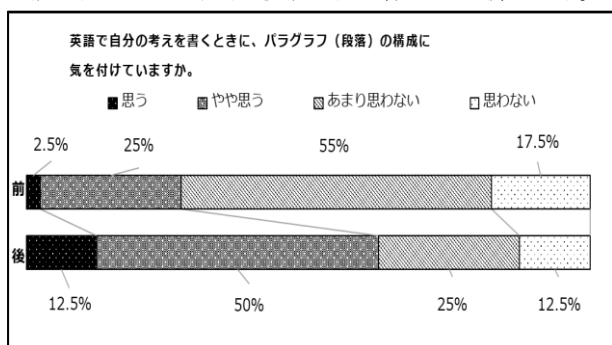
アンケート調査(4件法、n=40)において、「英語で自分の考えを書くときに、考えを整理していますか」の質問項目に対し、整理していると「思う」、「やや思う」と答えた生徒が45%(事前調査)から75%(事後調査)に増加した(第4図)。



第4図 英語で自分の考えを書くときに、考えを整理しているか

アンケート調査(4件法、n=40)において、「英語で自分の考えを書くときに、パラグラフ(段落)の構成に気を付けていますか」の質問項目に対し、気を付けて

いると「思う」、「やや思う」と答えた生徒が27.5% (事前調査)から62.5% (事後調査)に増加した (第5図)。



第5図 英語で自分の考えを書くときに、パラグラフ (段落) の構成に気を付けているか

(2) 考えを再構築すること (ツールD・Eの生徒の記述とアンケート調査結果)

ツールDのチェックリストの記述から、この生徒は、ペアが書いた英文を読み、論理性に着目して各項目に答えていた。また、ツールDのコメントシートから、ペアの英文を論理性に注意したものにするために、具体的なコメントを書いていた (第4表)。

第4表 ツールDチェックリスト・コメントシートの記述 (生徒の記述より作成)

Checklist:	
1 【主張】 が書けているか。	Yes / No
2 【主張】 を支える【理由】 が二つ書けているか。	Yes / No
3 【理由】 の具体例等が書けているか。	Yes / No
4 つながりや示す語や論理展開を示す語が書けているか。	Yes / No
5 【結論】 が書けているか。	Yes / No
6 【主張】、【理由】、【結論】 の内容が互いに関連し合い、論理的に書けているか。	Yes / No
コメントシートの記述	
・理由1と具体例のつながりが分かりにくいので、同じ場所を言うなら、itとかで分かりやすくした方がいいと思った。	
・理由2 I want to play with sea animals. の play って何をしたいのかなと思いました。例えば、「一緒に泳ぎたい」とか、swimとかどうですか。	

本思考ツール活用前の記述とツールEの記述から、この生徒はコメントを基にして推敲し、考えを再構築していた (第5・6表)。第5表は、本思考ツールを活用する前のある生徒の記述であり、短い文が二つのみであった。

第5表 本思考ツール活用前の記述 (生徒の記述より作成)

I want to go France. Because I want to learn France' s history.

第6表は同じ生徒のツールEの記述である。主張→理由→具体例→結論という構成で、論理性に注意して

考えを書いている様子が見て取れた。

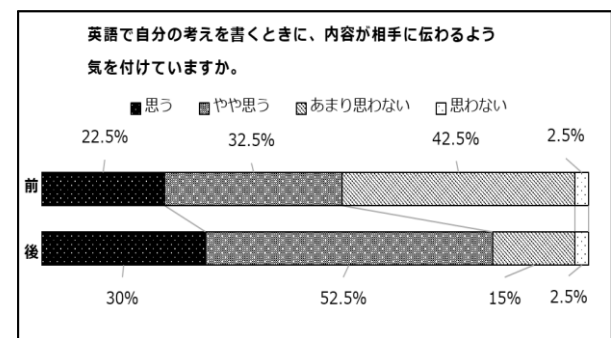
第6表 ツールEの記述 (生徒の記述より作成)

I want to (1)go to France for an adventure. There are two reasons.  
 First, I like (2)French art and I want to visit the Louvre Museum. For example, (3)I want to see Mona Lisa  
 Second, I like French history (4) very much.  
 Especially, I want to visit Mont Saint Michel.  
 For these reasons, I want to go to France for an adventure.

※下線は筆者

- ・この生徒は自らの気付きで(1)goをgo to、(2)France' sをFrenchに修正した。
- ・ペアのコメントを受け、(3)の※の部分にあった especiallyを削除した。文章後半での重複を避けたとのことである。
- ・(4)は強調の目的で追加を勧められたことによるものである。

アンケート調査 (4件法、n=40)において、「英語で自分の考えを書くときに、内容が相手に伝わるよう気を付けていますか」の質問項目に対し、気を付けていると「思う」、「やや思う」と答えた生徒が55% (事前調査)から82.5% (事後調査)に増加した (第6図)。



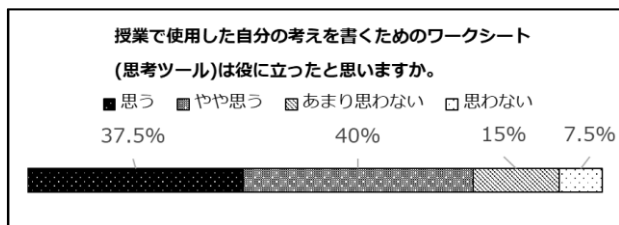
第6図 英語で自分の考えを書くときに、内容が相手に伝わるよう気を付けているか

7 考察

(1) 論理的思考力育成と「深い学び」の実現に向けて  
 検証結果から、生徒は自分の考えが相手に伝わるよう、考えの整理とパラグラフ (段落) の構成に注意を払っていた。また、読み手に伝わるように自分の考えを、主張→理由→具体例→結論という段落構成で書いていた。これらのことから、生徒は英語コミュニケーションIの「書くこと」の目標にある「考えなどを論理性に注意して」文章を書くことができていると、本思考ツールを活用した授業は、英語でのコミュニケーションに必要な論理的思考力の基礎を養うことに効果があったと考えた。また、これら一連の授業は情報を整理しながら、考えを形成、再構築する学習過程を取り入れており、見方・考え方を働かせる「深い学び」の視点による授業改善につながったと捉えた。

(2) 本思考ツールの有用性

事後アンケート調査において、「授業で使用した自分の考えを書くためのワークシート(思考ツール)は役に立ったと思いますか」の質問項目に対し、役に立ったと「思う」、「やや思う」と答えた生徒は77.5%だった(第7図)。本思考ツールが役に立ったと「思う」、「やや思う」と答えた生徒の理由として、「文の設計図になったから」、「頭の整理がしやすかったから」、「段階を経てやっていくのが良いから」という記述があった。



第7図 授業で使用した自分の考えを書くためのワークシート(思考ツール)は役に立ったと思うか

これらの結果から、本研究にて開発した思考ツールは、生徒が自分の考えを論理的に注意しながら書いて伝えることに、おおむね有用だと考える。

また、「思考ツールDは論理的な文章を書くのに役に立ったと思いますか」という質問に対して、役に立ったと「思う」、「やや思う」と答えた生徒の理由として、「自分で気付けなかったところを友達に教えてもらい、気付くことができた」、「足りていない部分を周りとの協力することで気付けた」という記述があった。一人ではできなかったことが、他者と力を合わせることで可能となり、ここにも思考ツールを用いた活動の有用性を見いだすことができた。

## 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本思考ツールを活用して、見方・考え方を働かせる授業を行い、生徒が英語でコミュニケーションを図るために必要な論理的思考力を育成することは、「深い学び」の視点による授業改善につながるということが分かった。また、この取組をもって、所属校の課題である「どのように『書くこと』を指導するか」、「どのようにすれば生徒が論理的思考力を身に付けられるか」を解決するための手立ての一例を示すことができた。

### 2 課題と今後の展望

#### (1) 本思考ツールをより効果的に活用するために

ツールDを用いた活動の中で、どのようにコメントを書けば良いか分からない生徒がおり、これを課題として捉えた。要因としては、生徒の英語に関する基礎知識が十分でなく、コメントにつながらなかったことが考えられる。対処としては、本思考ツールの活用と併せ、論理的な文章に多く用いられる語彙や表現、論

理展開を示す接続詞等を扱う時間を十分に設けることが考えられる。また、コメントを書く前に、英文で表された互いの意図を確かめ合う活動を注意深く行うことで、改善が図られる可能性がある。

#### (2) 汎用的能力としての論理的思考力育成に向けて

検証授業では、本思考ツールを活用して生徒の論理的思考力の基礎を養った。このような学習を継続することにより、最終的に本思考ツールがなくても、様々な場面で、英語でコミュニケーションを図ることのできる汎用的能力としての論理的思考力の育成につながると考える。更には、書く活動の題材を他教科等で学んだ内容と関連付けることで、生徒が教科間での学びのつながりや広がりを感じ、より広い視点からこの能力を育むことができる。

生徒が将来この能力を発揮することができれば、社会や世界、他者との関わりの中で事象を捉え、より円滑に英語でコミュニケーションを図ることが可能になると考える。

## おわりに

検証授業や生徒の意見を振り返って、思考ツールは英語を通して考えを書くことにおける大きな支援になり得ると感じた。これを用いて、生徒の資質・能力の更なる向上を目指したい。最後に、本研究に御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2020年2月7日取得)
- 文部科学省 2018a 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編英語編』 開隆堂出版
- 文部科学省 2018b 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編』 東洋館出版社

## 参考文献

- 文部科学省 2017 「平成29年度英語教育改善のための英語力調査(高校3年生)の概要」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaiko\\_kugo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470\\_03\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaiko_kugo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf) (2020年2月7日取得)
- 大井恭子・田畑光義・松井孝志 2008 『パラグラフ・ライティング指導入門』 大修館書店
- 田村学・黒上晴夫 2014 『こうすれば考える力がつく! 中学校思考ツール』 小学館